

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	大口めぐみの里 2号棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大口市曾木480番地
記入者名 (管理者)	橋口るみ子
記入日	平成 20年 8月 31日

鹿児島県 グループホーム大口めぐみの里2号棟
 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全体で確認し地域生活の継続支援を重んじ、その人らしく生きる力を大切にできる様に理念を作り上げている。		理念が介護の道しるべとして存在するという勉強会を行っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼後、理念を唱和しその日のリーダーが理念に沿った目標を掲げ共有した上で、日々のサービスに反映される様取り組んでいる。		評価までしているなので、それがいかされる様検討を重ねていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に理念を掲げ、家族や地域の人々がみえた時に伝え、理解して頂く様に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の挨拶を交わしたり、又、野菜を頂いたり回覧板を回したりとふれあう機会が多く持っている。		介護について、近所の方々に声掛けを行い、勉強会をしていこうと計画している。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	用水路の清掃や草払いに参加をし、又、地域住民として避難訓練に参加している。夏祭り他行事への参加の呼びかけを行って交流を図っている。		さらに地域行事に出掛けて行ける様につとめたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアや実習生の受け入れを行い、共に学んでいく姿勢を持っている。介護の相談も受け、アドバイス等行っている。		地域住民の方々から認知症の介護相談を受けている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のミーティング・勉強会を開いて、全員で自己評価に取り組む様になっている。又、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善計画も作成している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行われており、意見交換・検討事項や懸案事項についてその経過を報告しあい、積み上げていく様になっている。市町村職員担当者から行政の現状報告やアドバイスも受けている。		地域包括支援センター職員の参加を希望する。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスの向上に向けて、事業所のサービスへの取り組みを報告し、意見交換を行っている。		理解が深められる様、市町村担当者との交流の機会をさらに多く持つ。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の理解が深められる様に定期的に勉強会を開催する。必要性のある利用者に対して活用していく方策を考え、支援に結び付けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待となり得るべき事項についてミーティング等で全員が理解浸透し、見過ごされる事がない様になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時は重要事項説明書に基づいて丁寧に分かりやすく説明する。又、契約解除・退所に至る場合についても十分理解して頂ける様にしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の立場に立ち一人一人の意見をよく聞き、不満や苦情に対しては速やかに対応し、記録にも残している。		居室を訪問し、話を聞く時間をとる様にしている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族への近況報告を月1回手紙で知らせており、状況によっては都度電話で報告している。面会時にも詳しく説明する。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会を設け直接要望を聞いたり、家族同士で話をする機会を作り、代表者より伝えてもらっており、反映していく努力をしている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のミーティングで意見交換を行い聞く機会を設けている。テーマを決めて話し合う様にしている。		1対1で個別に面談する場면을定期的に作っていきたい。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務は利用者の自由な暮らしを支援できる様に人員確保ができており、夜間の十分な対応にも配慮したシステムである。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニット毎に職員は固定化されている。職員が異動した場合は、利用者への説明を行いダメージを防ぐ配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはできるだけ多くの職員が参加できる様、外部・内部研修を積極的に取り入れている。		報告が十分される様にミーティングを活用している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協議会の一員として交流しており、内容を伝えていく場を持ち、又、勉強会への計画等へも取り組んでいる。		他のグループホーム見学を行ない良い所は学ぶ様にしたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務は必要に応じて希望が入れられる様にしており、勤務中も休憩がとれる様に時間を設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の労働条件を整えてあり、就業時間が守られている。資格取得に向けた配慮もされている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回に面談を行い本人の求めている事をよく聞き、又、不安に対する軽減を行える様にしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人同様に家族の意向を聞き、介護に生かされるべく意見を取り入れられる努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族から今までの状況を良く聞いて何が必要かを見極め、信頼関係を築きながら支援への提案を行っている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>場所や職員に馴染んでいかれる様に十分コミュニケーションを図り、他利用者と交流できていく様支援する。</p>		<p>家族や本人にまず施設を見学して頂く事をしている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の今までの生活歴を考慮し、その思いを受け止め、人として尊重し合いながら共に支え合う関係作りに留意している。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との情報交換を密に行う事で、利用者の思いを家族に伝えながら、家族とともに利用者を支え合っている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>行事・面会時・外出の時など、家族と過ごす時間を作り、よりよい関係が築ける様支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域で暮らす友人に来て頂いたり、病院受診時馴染みの方と会話できる様支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士コミュニケーションがとれる場所を確保し、職員が調整役となり利用者が孤立しない様支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方も行事に招待したりして、遊びに来てもらう等継続的な付き合いができる様にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や表情などでその真意を推し、確認する様努めている。視覚障害者の方へも常に声掛けをしながら介護援助している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を生かしていくべく家族より情報を得、また本人との対話の中で把握する様に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の生活リズムを把握し、できる事・できない事を見極め、できる能力に注目し維持していける様にする。		居室へ訪問し、顔色の異常やバイタルサインのチェックを身体に触れて知る様にしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が自分らしく暮らせるケアについて家族やスタッフ間で話し合い、利用者本位の計画になる様に作成してある。		本人の思いも出来るだけ推し測る様に話しを聞く姿勢を常に持っている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族、各関係者間と話し合いながら、状況に応じた介護計画の見直しを行い、作成にあたっている。		時間を有効に使い、カンファレンスに当てていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者のケア記録は個別にファイルし、本人の状態や様子を毎日記録し、情報を共有しながら実践や介護計画に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人の状況に応じ介護保険のサービスに加えて、自主サービスを生かし通院、外出等柔軟な支援をしている。短期入所の利用もある。		多機能性を生かしたサービスの支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や民生委員とも意見交換する機会を設けたり、近隣施設への働きかけやボランティアの協力を呼び掛けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて事業者以外のサービスを受けられる様、地域の他のケアマネジャーや施設と検討し合っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連携を図りながら、支援に関する情報交換や協力関係を築いている。		運営推進委員会に地域包括支援センターの職員が新たに参加する。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人のかかりつけ医で医療を受けられる様家族と協力し、通院介助を行ったり訪問診療となるケースもあり、複数の医療機関と関係を結んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医・脳神経外科医の利用者の状態に応じて診察を行い、症状に対するケアの方法・認知症の治療など適格に受けられ様、関係を築いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されており、状態変化や健康管理など把握し、24時間対応で利用者の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合も、毎日様子を伺い、安心して治療ができる様にする。又、早期退院に向けて、病院関係者との連絡をはかり、情報交換をする。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人・家族の意向を聞く。又、かかり付け医からの指導も含めて、職員全員がその方針を共有している。		終末期に入った時、どう対応していくかミーティングを重ね、日々の変化していく状態を把握していく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を安楽により良く暮らしていける為に、家族を含めたスタッフ全員で検討している。かかり付け医師とともに、支援していくよう取り組んでいる。		事務所ができるケアについて、職員全体で話し合い、家族の気持ちに十分な対応ができる様にする。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住みかえ時には、環境の変化によるダメージが小さくなる様に、相互で情報交換をはかり、今まで同様の介護が受けられる様支援する。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーに関する事など他人に話したりしない様に、朝礼やミーティングで話し合い対応している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声掛け言葉掛けも、本人が戸惑う事無く分かりやすい説明をし、決定は自分で出来る様に助言する。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、利用者の体調や性格・気分に合わせて状況判断し支援する。	朝のミーティング・申し送りをさらに活用し、状況に応じた対処ができる様にしていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望する理美容室へ行ける様に支援する。又、自身で意志決定できる人へは洋服の選択をして頂く。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れた献立を工夫し、下ごしらえ等を手伝って頂き、嗜好によっては別メニューに切り替える。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族と話し、利用者が自宅と同様好きな物を1人1人の状況に合わせて、日常的に楽しめる様支援している。	疾患のある方には、その症状に合わせた飲食物を摂って頂く様にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は個人の排泄パターンを把握しており、時間毎のトイレ誘導を行ない排泄できる様支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いする事無く、利用者の希望タイミングに合わせた入浴をしている。安心感を持って入浴して頂ける様、見守・声掛けの支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中なるべく活動を促がしているが、体調や希望を考慮して、ゆっくり休息を取れる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の力が発揮出来る様、掃除や洗濯物のたみ方、野菜の下ごしらえ等、個人の力に合わせた役割・楽しみの支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と相談しながら、利用者一人一人の力や希望に合わせて本人の金銭管理の支援に取り組んでいる。		自分でお金のやり取りをする事で、社会的繋がりを持つ様にする。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分・希望に応じて季節を感じて頂き、心身の活性に繋げられる様に、散歩やドライブ等に出掛けている。		車椅子の使用の方でも気軽に掛ける様、人員や車の手配等を行っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節や気候により、公園などに行ったり、職員とドライブに出掛けたりする。家族と出かけて行かれる機会を持つ様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時には、時間を考慮し、場所もゆっくり対話ができる様、居室で話して頂く支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問ができ、馴染みの人達と居室で居心地良く過ごせる様にしている。		面会時間の制限はないが、状態状況も考えて時間配慮をしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという事をケア基本とし、ミーティングや勉強会の中で職員同士話し合い、共有認識を持ち取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	室内や玄関に鍵は掛けず、チャイムやセンサーに頼る事無く、さりげなく見守りを行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在を把握しながら、居室で過ごす利用者には声掛けをするなど安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、保管しないといけない物・よい物に分けて対応し、常に確認しながら危険防止に努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し、支援や対応の仕方等検討している。事故発生等のマニュアルを認識する様に、事故防止に向け取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応についてのマニュアルを掲示しており、それに沿って年1回の訓練を行ったり、消防署の協力で救急手当てや蘇生術の講習を受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を頂き、避難訓練や消火器の使用方法などを定期的に行っており、水害については地域住民の方の協力を得ながら訓練している。		自然災害の体験があり、災害時の対応についての心構えはできている。更に、防災訓練を重ねて不安の無い様になりたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて把握して、定期的に話し合いを持って見直しを行ったり、家族へは事務所が自由な暮らしの大切さを丁寧に説明し、納得が頂ける様努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の状態を把握しており、異常が起きた場合はバイタルチェックと記録を行い、状況に応じて早期の医療受診へ繋げている。		報告・連絡・相談と、お互いに確認し合い、早期発見・受診を行っている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内容を把握できる様、服薬ファイルを作成している。服薬時は本人確認をし、服薬が正しく行われる様、見守・介助している。		薬袋には、大きく名前を記してある。再三の確認を行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や乳製品等を摂って頂き、水分補給・運動の働き掛けを行ない、排便チェック表を作り支援する。		便秘のもたらす体調の変化を心得ており、皆が管理すべき重要事項として注意している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き・義歯洗浄を行ない、口腔ケアに配慮している。また、口腔ケアの講義を受け、実践を行い技術学習をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の野菜を取り入れ、栄養バランスを考えた献立作りを行っている。食事量・水分量のチェックを行い、その状況を職員が共有しており、一人一人に応じた支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての情報は早目に得て、予防や対応に努めている。事務所で予測される感染症についても把握しており、手洗い・消毒・予防接種等最大限の努力をしている。		来訪者にも手洗い・消毒をお願いし、外部からの感染防止に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理用道具等の衛生管理は常に行なわれ、食材は新鮮で安全な物を毎日調達している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の草花を生けてあり、プランターを置いて花が楽しめる様にしている。園庭にはテーブルとベンチが置いてあり、誰でもゆっくり休息ができる様にしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花を飾り、食卓には季節の食材を使った料理が並ぶ。光は自然の物を取り入れている。洗面トイレは消毒・消臭に心掛けている。		事務所があり、時々騒々しくなる為、ゆったりとした気分で生活できる様支援していく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には長椅子を、廊下にはソファを置き、独りになったり、それぞれが気の合った利用者同士で思い思いに過ごせる様に工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族の希望する使い慣れた物を活かして、本人が心地良く過ごせる様な工夫をしている。写真やお位牌の持ち込みも行なっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況に合わせて、温度調整や換気を細めに行い、汚物は早めに処理している。洗濯も細めに行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差のない様工夫されている。状態に合わせて、ベッドに立ち上がり易い様にと専用のベッド柵を付けている。又、車椅子も取り入れている。		生活空間の中で、危険因子がないかなど再度チェックし、改善につなげている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかる力を活かせる様に、排泄・食事・見当識に至るまで混乱なく生活していける様工夫し、支援態勢をとっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	身体状態に合わせて、車椅子利用者の方へも外部の空気や景色が楽しめる様散歩をしている。プランターや花壇には、季節の花が植えられ、それを見ながらお茶が飲める様に雰囲気作りをしてある。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2 / 3 くらいの
			利用者の1 / 3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどいない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2 / 3 くらいが
			利用者の1 / 3 くらいのが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2 / 3 くらいの
			利用者の1 / 3 くらいの
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2 / 3 くらいが
			利用者の1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2 / 3 くらいが
			利用者の1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2 / 3 くらいが
			利用者の1 / 3 くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2 / 3 くらいと
			家族の1 / 3 くらいと
			ほとんどできていない

項 目			
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどでない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が、そのひとらしく過ごして頂けるように施設の方針を定めパーソンセンタードケアの精神で介護にあたっている。 家族とともに支え、安心して暮してもらいたいと願っている。 菜園があり季節毎の野菜が食べられ、また、米も栽培し安心して食べることができる。 施設内外の清掃が行き届いており、清潔で環境も良い。